

本書の構成・利用法

case タイトル

多くの申請書を添削し、採択に導いてきた著者が、さまざまな分野の実際の申請書から重要な例文を厳選し、審査委員目線でコメント。

申請分野

比較的良好にみられる関連の深い分野を濃く示します。

2 研究目的、研究方法など：概要

case 17

唐突なはじまりで読みにくい

理工系 生命科学系 医歯薬系 人文系 社会科学系 総合領域系

重要度 ★★☆☆

頻度 ★☆☆☆

どこがよくないか

例文 1

(概要)

ヒト皮膚の角質層に治療液が浸透する物理メカニズムの解明は、レーザー共焦点顕微鏡と～(以下省略)

例文 2

(概要)

人間の欲求に関する脳内の情報処理は記憶活動を促進する。Enrianiらは生存欲求が、欲求の階層構造の最下層に位置し、その情報処理が記憶活動を促進することを報告している。しかし申請者らは、より上層の欲求である目標達成欲求に関連する情報処理が、意味的情報処理よりも記憶活動を促進することを示した。そのために、欲求の階層構造における各階層の欲求が記憶活動にどのような効果を及ぼすかを比較し、欲求の階層構造に対応して記憶に及ぼす効果が変化するかどうかを検討することが、第1の目的である。(以下省略)

重要度 ★★★★★ (採択に影響大) ☆☆☆ (審査委員の心証次第)
頻度 ★★★★★ (まずはここを直すべし) ☆☆☆ (配慮できれば二重丸)

どこがよくないか

問題のある申請書の実例を提示。審査委員の気持ちになって、どこがよくないのかを考えてみてください。

インデックス

8つの改良方針(ふさわしく/はつきりと/具体的に/簡潔に/推敲のヒント/レイアウト/図表/アピールする)で該当するものを濃く示します。

さらに…

申請者のギモン

フォントの相談や図版の見栄えなど、ありがちな28の疑問について具体的に回答しています。

申請者のギモン1 ひらがなと漢字

細かいことだが、漢字で書くのがいいのか、それともひらがなで書くのがいいのか迷う場合がある。例えば、語句をつなげる場合の「及び」と「および」、どちらがよいのだろうか？

審査委員としては基本的に「及び」と「および」のどちらでもよいが、個人的には本文に漢字が多いときや、前後が漢字である場合はひらがなの「および」を使う方がよいと思う。これは unnecessary 漢字を減らすことで、本文を読む抵抗感が減ること、キーとなる専門用語(カタカナでない場合は漢字であることが多い)が目に入りやすくなることを期待して、である。

最終的には申請書の記載部分や前後の漢字を考慮して、漢字を使うのか、ひらがなを使うのか

アドバイス & 添削例

著者からのアドバイス、例文ごとに添削のポイントを示します。

アドバイス

書きはじめには2つのパターンがある。迷ったら「本研究の目的は」or「背景」から書きはじめよう

添削例

例文1

(概要)

ヒト皮膚の角質層に治療液が浸透する物理メカニズムは、レーザー共焦点顕微鏡と～(以下省略)

例文2

(概要)

人間の皮膚に関する脳内の情報処理は記憶の最下層に位置し、その情報処理が記憶より上層の皮求である目標達成皮求に関連することを見いだした。そのために、皮求の結果を及ぼすかを比較し、皮求の階層構造にすることが、第1の目的である。(以下省略)

背景が長すぎる。目的解決すべき課題は？

なぜよくないのか？ どのように改良すればよいのか？

各例文のよくない点と改良の方針を示します。イメージしやすいように各例文を具体的にに取り上げ、応用しやすいように一般化した解説をしています。

なぜよくないのか？

例文1は「目的」から書いているが、このはじまり方はあまりにぶっきらぼうだ。悪くはないがもう工夫できる。

例文2は研究の「背景」をまず書いているのはいいが、解決すべき課題(「問い」)を書かず、そのまま現在の状況をずらずと書き続けてしまっている。いずれも審査委員によってはわかりにくさを感じる原因になる。申請書の開始部分、特に「概要」の開始部分はどのようなものがよいのだろうか？

どのように改良すればよいのか？

申請書で文章のはじめ方(開始パターン)は大きく2つは、「本研究は」「本研究の目的は」と、まず研究「目的」は、まず「背景」を書くパターンである。1つ目の後にそのまま研究の「背景」を書いていっても問題ないが、状況によっては「目的」を先に書く方がよい。審査委員の目を引く、具体的な改善例を提示します。

改善例

審査委員の目を引く、具体的な改善例を提示します。

改善例

例文1

(概要)

本研究の目的は、ヒト皮膚の角質層に治療液が浸透する物理メカニズムの解明に貢献することである。(以下省略)

例文2

(概要)

人間の皮膚に関する脳内の情報処理は記憶の最下層に位置し、その情報処理が記憶より上層の皮求である目標達成皮求に関連することを見いだした。そのために、皮求の結果を及ぼすかを比較し、皮求の階層構造にすることが、第1の目的である。(以下省略)

書き方のポイントを身につけたい

- ① **どこがよくないか** の例文を使い、case タイトルをヒントに添削の腕試し
- ② **アドバイス** **添削例** で改良のポイントを確認！
- ③ **なぜよくないのか？** **どのように改良すればよいのか？** を熟読すれば、セルフチェック力も鍛えられます
- ④ ふとした思いつきは **申請者のギモン** に分類がないかチェック！

申請書のブラッシュアップに役立てたい

※申請書の草案を用意してください(草案作成に難しさを感じる場合は「補遺1」を参照)

- ① セルフチェック/第三者チェックで、改良すべき点をあぶり出す
- ② 目次や付録、索引を活用して自分の改良すべき点に近い case にアクセス！
- ③ **どのように改良すればよいのか？** **改善例** を参考に、改良してみましょう
- ④ ①～③を繰り返して、魅力的な申請書に仕上げ、応募！